

ごぼう

キク科：北歐・シベリア・中国東北部

栽培暦

月 旬	3			4			5			6			7			8			9			10			11					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
主 な 作 業				○ — ○																										
	深耕・施肥・整地			播種 除草剤散布			追肥・中耕・土寄せ 間引き（本葉3〜4枚）			病害虫防除			追肥・中耕・土寄せ			病害虫防除			収穫始め											

■栽培のポイント

1. 病害やセンチュウによるヤケ症抑止のための輪作（4年1作）。
2. 耕土の深い、地下水位の低いほ場での長期的土づくり。
3. 発芽を揃え、順調な初期生育を促すためのうね、覆土の均平、鎮圧。

■品種・種子量 柳川理想。a 当り 0.10。シーダーテープ利用では 10 cm 間隔に 2~3 粒の種子を入れ 1,400m 分用意する。

■播種期 4月上旬~5月上旬。

■播種準備

深耕 播き溝部分は、播種30日前にトレンチャーを用いて80cm以上の深耕を行い埋めもどす。

施肥 堆肥は前作で施用する。不足の場合は必ず良質な完熟堆肥を用いる。酸性土壌を嫌うのでpHは6.5に矯正する。基肥は全面散布し全層に混入する。深耕を実施した所で下層に強酸性土や磷酸欠乏土を含む場合は、初期生育にむらが出やすいので酸度矯正と磷酸補給に特に注意する。

■播種 種子は光によって発芽が促進される。播種前に一昼夜水浸することで休眠打破効果も付加され、発芽揃いが良くなる。

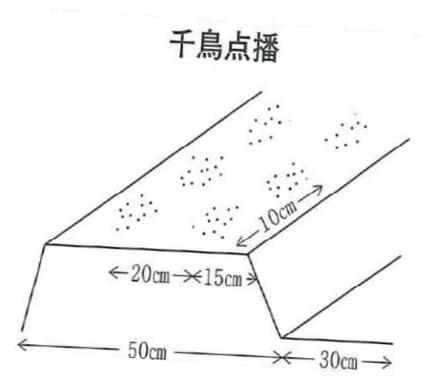
うね幅70cmの平うねに10cm間隔に3粒ずつ点播し、鎮圧して浅く（1cm程度）覆土する。シーダーテープ利用の場合は2~3cmの覆土とする。

施肥例

(a 当り)

うねつくり

肥料名	基肥	追肥	備考
完熟堆肥 (前作)	200kg	—kg	成分量
苦土石灰	14	—	窒素 1.5kg
ようりん	8	—	リン酸 1.5
そ菜1号	6	—	加里 1.5
麟硝安加里 S604 (2回に分けて)	14 —	— 4	



■管理

除草 初期生育が緩慢なので発芽から茎葉が繁茂するまでの 2 ヶ月間は除草をきめ細かく行う。

間引き 草丈 10 cm 前後、本葉 3~4 枚までに間引きし 1 本立ちとする。生育の良すぎるもの、悪いもの、首部分が出すぎているもの、葉色異常、病虫害等による障害株を間引く。

追肥 追肥は 2 回に分け、1 回目は間引き直後、2 回目は地表面が葉で覆われる直前 (本葉 7~8 枚頃) の株の周りに施す。

中耕培土 追肥毎に除草を兼ねて軽く中耕し土寄せする。

■病虫害防除 窒素肥料過多を避け病害の発生を抑制するとともに、生育初期~中期を中心にアブラムシ等の害虫を防除する。

■収穫 根径が 2 cm 位になったら収穫を始める。あらかじめ地上部の葉を 15 cm 位残して切り取り、根の側面をトレンチャーで深く掘り起こしてから、引き抜く。掘り取ったごぼうは、首の部分を出して仮埋めし乾燥を防ぐ。10 月中旬以前は適期を過ぎると、ス入りや空洞が多くなるので注意する。

ちょっと一服

タネの発芽と光の関係

性質	品目名	発芽をよくする条件
光線があると発芽しやすいもの (好光性種子)	セルリー・みつば・レタス・シソ こまつな・ごぼう	タネ播き後土をかける量を少なくする
光線に当てると発芽しにくいもの (嫌気性種子)	なす・トマト・トウガラシ・ねぎ タマネギ・だいこん	タネ播き後土をやや多めにかける